

複製画使用報告書

使用者	機 関（学校名）：茨城県立水戸高等特別支援学校 職・氏名：教諭 坂場 雪華	
使用期間	令和6年4月23日（月）～令和6年8月2日（金）	
使用のねらい	○ 実物サイズの複製画を鑑賞することで、名画に対する興味関心をたせる。 ○ 実物を身近に触れることで、作者の考えや細かい描写にまで目を向け、より深く鑑賞する力を高め、創造する力を育ませることができる。	
使用した複製画	点 数	5 点
	作品名	作者名
	ゲルニカ	パブロ・ピカソ
	最後の晚餐	レオナルド・ダ・ヴィンチ
	春	ジャン＝フランソワ・ミレー
	タンギー親爺の肖像	ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ
	赤のハーモニー	アンリ・マティス
活 動 名	「名画を鑑賞しよう」	
実施方法（活動の流れ）別添可	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使用しながら作者について触れる。（5人の作家の人生やたくさん作品に触れる）1時間 ・鑑賞しよう（ワークシートをもとに、友達と話し合いながら学び合いを通して鑑賞する。）1時間 	
感想等	<p>本校は、卒業後の就労、自立、社会参加のために日々さまざまな学習や活動に取り組んでいます。生徒の実態やこれまでの生活環境の中で生徒が実際に美術館を訪れたり、美術の作品に触れたりする機会が少ないのが現状です。</p> <p>本校では、美術館の複製画を借用し、より本物に近い状態で名画の鑑賞を行うことで美術作品に対する興味や関心、美術館を利用してみたいと思えるような気持ちを育てたいと考えています。また、作者と自分を照らし合わせ共感し合いながら鑑賞することで豊かな感受性を育むよい機会となりました。</p> <p>実際に複製画を鑑賞する前に、ひとりひとりの作家の人生や作品に触れ、どんな人生を歩まれたのか、どんな気持ちで絵を描いていたのか、背景を捉えながら多面的・多角的な視点で創造しながら鑑賞をすることができるように努めました。</p> <p>ゲルニカの作品は、戦争の悲しみや怒り、希望への願いが込められていることに触れ、作品を通して作者が伝えたかったことを痛感しながら鑑賞する姿が見られました。また、実際の作品の大きさを教室で見立てたことで、あまりの大きさに生徒たちは驚きを隠せない様子でした。最後の晚餐の作品は、ミステリー的な要素を踏まえながら生徒たちは興味関心を抱きながら鑑賞することができました。今後も鑑賞を通して、生徒たちの感受性と</p>	

創造性を育んでいける授業を考えていきたいと思います。また、学び合いを通して主体性や多様性のある学びの場をつくっていきたいです。

使用風景（写真等）※当館ホームページに使用してもよい写真

複製画とともに使用した参考資料：（ワークシートなどがあれば添付願います。）

※当館のホームページに掲載させていただく場合がございます。その際は、ご連絡いたします。

※ホームページの「教育・研究」→「複製画の貸出」→「複製画借用申請書」のデータファイルがありますので、入力してご提出ください。